

ポラリスを仰ぐ北の大地から

二期目新規事業への 取り組み

江別医師会 会長 野呂 英行

故品田佳秀会長の急病による思いもよらぬ突然の会長就任に、当初は戸惑い、かつその責任の重さに悩んだこともありましたが、役員はじめ多くの先輩や会員諸氏の温かい支援と協力に甘え、支えられ、何とか二期目最後の年度を迎えました。

昨年の4月には非営利型一般社団法人への移行も無事完了し、その基本とする理念と責務は変わらないものの、厳しい時代を乗り越え、長きにわたり先達が築いた伝統と基盤をいかに生かし進化させ、あとに続く人たちに引き継げるか、新たな使命に心が引き締まる思いがしたのも事実です。

昨年より、会員の提案をもとに新規事業への取り組みを進めています。スポーツ指導者を対象に「江別スポーツ指導者講習会」を開催し、青少年はもちろん、成人の健康増進に欠かせないスポーツの、安全で楽しくかつ有意義な活動のために、指導者の役割は大きく、そこには正しい知識が欠かせません。開催方法や時期など市との連携も強化します。

また、ひとり診療がほとんどの医院では、急病やけがによる、突然の院長不在時に備えた具体的対策がとられていないのが現状です。外来患者への対応、それを担う従業員への最低限の緊急時対応マニュアルも必要です。紹介状の発行などから始まり、長期休業へ備え、そうした緊急時に際し医師の応援体制があればどれだけ安心でしょうか。医師不足の時代、1郡市医師会での対応には限界があるでしょうし、どこまでできるか、やるべきか検討を始めたばかりです。先駆けて対策をお持ちの医師会のご指導、または広域での対策づくりへのご賛同ご提案があれば是非お聞かせいただきたいと思えます。

夢の年金生活

石狩医師会 会長 我妻 浩治

先日久しぶりに高校時代の同期生数人と飲む機会があった。既に全員65歳を過ぎ、自分以外は皆いわゆる年金生活者である。ひと通りの昔話に花が咲き、家族の話(孫中心)、健康問題(小児科医と知っていながらがん、成人病の質問)等など酒の勢いもあって話にキリがない。ひと段落したあと、定年退職した後の今の話になった。大手プラント企業や地方新聞社、ホテルの支配人、高校の校長、大学の教授を退職した面々である。比較的裕福な？年金生活者ではあるが、全く働いていない一人を除いてそれぞれ企業や教育機関などに席を置いていた。自分の遊ぶ分は稼がなきゃとのことらしく、全日勤務ではないが皆口を揃えて週2日勤務と言っていた。その他自分の趣味を生かした地域活動やボランティア活動など、結構忙しかつ有意義に働いているようである。

自分と言うと、開院25年目の小児科診療所で毎日それなりに忙しく働いている。夢の年金生活には程遠く厚生年金の掛金を毎月払っている。仕事を辞めるまで払い続けるのか？今のところ大した病気もなく仕事を続けているが、医者はいつまで働けるのだろうか？勤務医でなければ定年もないし、自分のような小児科医は頭の老化がなければ結構いけるのかもしれない。同期の面々のように週2日勤務とはいかないものの、診療時間、日数を削るなりして工夫してみるのも一考か？元気なうちにと、余力を残してとか言って退役なさる先輩もいらっしゃるが、自分は突然の夢の年金生活には面食らってしまうだろう。女房いわく、昼間からお酒を飲んですぐにアルコール中毒になってしまうよ。それも困る！70歳に向かいながら残りの人生、どう工夫すればいいものか？夜はぐっすり夢の中で考えている。

私事で恐縮ですが、82歳の小児科医の叔父が、6月末で診療所を閉じました。長い間、体力、気力、情熱を維持し続けた結果だと思えます。ご苦労様でした。いろいろとご教示ありがとうございました。本文を借りて御礼申し上げます。

